

## 6. パセリー

セルリー同様セリ科野菜であって、プロパジン、リニュロンによる直まき栽培は種時処理の効果が大きい。そのほか、C M M Pも利用できる。

① プロパジン（商品名ゲザミル），水和剤  
10～15 g/a，は種直後全面土壌処理または定植後全面土壌処理を行なう。

② リニュロン（商品名ロロックス，アフアロン），水和剤  
10～15 g/a，は種直後全面土壌処理を行なう。

③ C M M P（商品名ダクロン），乳剤  
50～100 cc/a，は種後または定植活着後，雑草が3 cm以下の時期に雑草処理を行なう。本剤は，セリ科に選択性を示す接触型薬剤であるが，土壌処理剤としての効果もある。

## 7. ミツバ

セルリー，パセリー同様セリ科野菜で，直まき栽培のは種後初期生育時の雑草防除が最も重要であるが，利用できる除草剤の種類は多いので優占雑草の種類によって使い分けるとよい。

① N I P（商品名ニップ乳剤），乳剤

80～100 cc/a，は種直後全面土壌処理を行なう。

② リニュロン（商品名ロロックス，アフアロン），水和剤

10～15 g/a，は種直後全面土壌処理を行なう。

③ プロパジン（商品名ゲザミル），水和剤  
10～15 g/a，は種直後全面土壌処理を行なう。降雨による土壌移行性が大きく，砂質土壌では薬害のでることがある。

④ C M M P（商品名ダクロン），乳剤  
は種後雑草が3 cm以下の時期に雑草処理を行なう。

⑤ 石油系除草剤（商品名シルバゾール），ミツバの生育中雑草が共生しているとき全面処理を行なうと，雑草のみ選択的かつ速効的に枯死させることができる。ガソリン類似のもので，原液のまま散布する。茎葉にむらなく散布するには，4～6 ℓ/a が必要である。できるだけ霧を細かく散布すると，雑草への展着がよく，かつ雑草があまり大きくならない中に処理すれば，薬量が少量で済む。晴天時に散布すると効果が高い。揮発性であるから，ミツバに付着しても数日で薬液は消散する。ただし使用にあたって火気には十分に注意しなければならない。

### 減びゆく雑草

東京の周辺では，昔はどこでも見られた在来種のカントウタンポポが，近頃では非常に少なくなってきた。それにかわって，帰化雑草のセイヨウタンポポがはびこっているということが，今年の春頃に話題となったが，これと同じことが他の雑草にも起っている。千葉県では，今までは畑の近くでよく見られた

ヨメナ，ノコンギクなどが減り，近頃では帰化雑草のセイタカアワダチソウがはびこってきた。また，昔からのマツヨイグサが少なくなって，帰化雑草のアレチマツヨイグサが多くはびこるようになり，在来のアレチノギクがこれも帰化雑草のオオアレチノギクに押されて次第に姿を消しつつある。生活力の強い雑草の世界にも弱肉強食の原則はあるようだ。